



### 樋口浩造先生 経歴

#### 学 歴

- 1983年 3月 山口大学人文学部人文学科（日本思想史学）卒業
- 1986年 3月 山口大学文学専攻科文学専攻修了
- 1988年 3月 大阪大学大学院文学研究科日本学専攻（日本文化学）博士前期課程修了（文学修士）
- 1992年 3月 大阪大学大学院文学研究科日本学専攻（日本文化学）博士後期課程単位取得退学

#### 職 歴

- 1992年 4月 大阪大学文学部助手（1994年 3月まで）
- 1994年 4月 無職（1994年 9月まで）
- ” 10月 大阪国際女子短期大学非常勤講師「日本文化史」（1995年 3月まで）
- 1995年 4月 大阪国際女子短期大学非常勤講師「比較文化」（1995年 9月まで）
- ” 4月 立命館大学文学部非常勤講師「日本史学史」（1995年 9月まで）
- ” 10月 愛知県立大学文学部一般教育専任講師「倫理学」
- 1997年10月 愛知県立大学文学部一般教育助教授
- 1998年 4月 愛知県立大学文学部日本文化学科助教授
- 2006年 4月 愛知県立大学文学部日本文化学科教授

2009年4月 愛知県立大学日本文化学部歴史文化学科教授(現在に至る)

### その他の職歴

- 1993年4月 大阪国際女子短期大学非常勤講師「日本文化史」(1994年3月まで)  
1996年4月 立命館大学文学部非常勤講師「日本史特殊講義」他(2000年3月まで)  
〃 4月 愛知淑徳大学文学部非常勤講師「日本文化論」(1997年9月まで)  
1997年10月 千葉大学非常勤講師「江戸から考える」(1998年3月まで)  
1998年10月 岡崎学園国際短期大学非常勤講師「日本の文化」(1999年9月まで)  
1999年10月 千葉大学非常勤講師「江戸から考える」(2000年3月まで)  
2000年4月 立命館大学大学院文学研究科非常勤講師(2000年9月まで)  
〃 10月 千葉大学非常勤講師「江戸から考える」(2001年3月まで)  
〃 10月 南山大学非常勤講師「異文化との出会い(日本文化論)」(半期:2016年まで)  
2005年4月 立命館大学大学院非常勤講師「歴史学原論」(2006年3月まで)  
2008年4月 南山大学大学院非常勤講師「現代日本社会研究」(半期:2018年まで)  
2016年4月 金城学院大学非常勤講師「メディア言説論」(隔年通年開講:2018年まで)  
〃 4月 南山大学非常勤講師「学際 歴史と世界(日本との出会い4)」(2018年まで)  
2017年4月 金城学院大学非常勤講師「近現代特殊講義」(隔年通年開講:2018年まで)  
2020年4月 金城学院大学非常勤講師「メディア言説論」(2021年3月まで)

### 学会および社会における活動等

- 1989年10月 日本思想史学会会員(現在に至る 2004年度より評議員2回)  
1990年2月 近世日本思想史研究会会員(1997年4月思想史・文化理論研究会と改称)  
1993年10月 日本倫理学会会員(～2010年)  
〃 11月 日本史研究会会員(～2013年)  
〃 12月 仏教史学会会員(～2010年)  
1994年11月 神道宗教学会会員(～2013年)  
1996年4月 現代思想研究会主催(現在に至る)  
1998年12月 朝鮮史研究会会員(現在に至る)  
中国社会文化学会会員(～2010年)

賞 罰 賞罰共なし

## 樋口浩造先生 業績

### 著 書

- 『シンポジウム〈徳川イデオロギー〉』  
共著 1996年7月 ぺりかん社 ヘルマン・オームス、大桑斉編  
担当箇所:「近世初頭における心の言説の登場とその意味」 pp.233-251
- 『「日本型社会論」の射程——「帝国化」する世界の中で』  
共著 2005年3月 文理閣

- 担当箇所：「ナショナリズムと文化研究——戦後日本文化論の何が問題なのか」  
pp. 17-38
- 3 『江戸の批判的系譜学——ナショナリズムの思想史』  
単著 2009年4月 ぺりかん社 pp. 1-225
- 4 『日本思想史の30冊』  
共著 2011年8月 人文書院  
担当箇所：丸山真男『日本政治思想史研究』他6冊計36頁
- 5 『国境の歴史文化』  
共著 2012年3月 清文堂  
担当箇所：「ナショナリズムと「日本文化」論——「文化」の境界を越えるために」  
pp. 69-92
- 6 『大学的愛知ガイド』  
共著 2014年3月 昭和堂  
担当箇所：「愛知に眠る「英霊」たち」 pp. 97-110
- 7 『暴力の哲学 被りの倫理学』  
共編著 2019年2月 晃洋書房  
担当箇所：「暴力を直視する——語り直される暴力をめぐる」 pp. 160-187

#### 学術論文

- 1 〈唯一〉を追う思想——中江藤樹をめぐる  
単著 1989年3月 『日本学報』8号 大阪大学文学部日本学科 pp. 27-46
- 2 権・時処位・心——中江藤樹の思想  
単著 1990年9月 『日本思想史学』22号 日本思想史学会 pp. 58-68
- 3 仁斎の朱子学批判——その転回と隠蔽  
単著 1991年12月 『待兼山論叢』25号 大阪大学文学部 pp. 19-33
- 4 天人関係の語りに見る二つの朱子学——浅見綱斎と五井蘭洲  
単著 1994年1月 『懷徳』62号 懷徳堂記念会 pp. 78-93
- 5 度会延佳と近世神道の成立  
単著 1995年6月 『江戸の思想』1号 ぺりかん社 pp. 118-135
- 6 教説の時代と近世神道——垂加神道を考える  
単著 1996年9月 『日本思想史学』28号 日本思想史学会 pp. 118-128
- 7 破門と義絶の学派——山崎闇齋学派における師説と学習  
単著 1996年11月 『江戸の思想』5号 ぺりかん社 pp. 96-113
- 8 「文化」研究の現在と日本思想史——「日本文化論」批判として  
単著 1997年2月 『愛知県立大学文学部論集 一般教育編』45号 愛知県立大学  
文学部 pp. 105-122
- 9 対抗の言説としての歴史表象——『江戸の思想』4号から考える  
単著 1997年8月 『愛知県立大学文学部論集 一般教育編』46号 愛知県立大学  
文学部 pp. 1-14
- 10 「国民の歴史」批判——『敗戦後論』と国民国家論批判に向けて  
単著 1999年11月 『日本思想史研究会会報』17号 日本思想史研究会 pp. 21-31
- 11 語りの中の「武士道」——批判的系譜学の試み  
単著 2001年9月 『日本思想史学』33号 日本思想史学会 pp. 183-198

- 12 「江戸」の自国意識——山崎闇齋学派とナショナリズム  
単著 2003年1月 『日本思想史研究会会報』20号 日本思想史研究会 pp. 297-308
- 13 戦後日本文化論は何を語ってきたのか——「語り」の機能の批判的検討  
単著 2003年2月 『「日本型社会」研究会会報』6号 「日本型社会」研究会 pp. 1-8
- 14 子安宣邦著：「アジア」はどう語られてきたか：近代日本のオリエンタリズム》讀後的省思  
単著 2004年11月 台湾 精華大学13 pp. 469-477
- 15 「アジア」の語りはナショナリズムを越えられるか  
単著 2005年3月 『愛知県立大学文学部論集 日本文化学科編』7号 愛知県立大学文学部 pp. 59-73
- 16 「日本の「戦後」を考える」  
単著 2006年9月 『日本思想史学』38号 日本思想史学会 pp. 37-40
- 17 日本ナショナリズム批判——帝国の時代の知の可能性として  
単著 2007年8月 『季刊日本思想史』71号 ぺりかん社 pp. 104-122
- 18 「江戸」の系譜学——近世思想史研究方法論として  
単著 2008年3月 『愛知県立大学文学部論集 日本文化学科編』10号 愛知県立大学文学部 pp. 39-52
- 19 史料紹介：小倉山善光寺所蔵『日露戦役野戦第九師團戦歴』解説、及び注記  
共著 2009年3月 『愛知県立大学文学部論集 日本文化学科編』11号 愛知県立大学文学部 pp. 107-167
- 20 史料紹介：中国人強制連行・地崎組『華人労務者就労顛末報告書』について  
共著 2013年3月 『愛知県立大学日本文化学部論集 歴史文化学科編』4号 愛知県立大学日本文化学部 pp. 48-99
- 21 史料紹介：「証言：日中戦争下の南京——松下富貴楼をめぐって」解説、及び注記  
共著 2014年3月 『愛知県立大学日本文化学部論集 歴史文化学科編』5号 愛知県立大学日本文化学部 pp. 7-49
- 22 権力の誘惑——靖国を考える視点設定をめぐって  
単著 2015年9月 『日本思想史学』47号 日本思想史学会 pp. 24-27
- 23 東アジア冷戦体制と日本——東アジアにおけるそれぞれの戦後から  
単著 2017年3月 『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集 日本文化専攻編』18号 愛知県立大学大学院国際文化研究科 pp. 89-97
- 24 El Esquema de la Guerra Fría en Asia Oriental y Japón: las Respectivas Posguerras en los Países de la Región  
単著 2017年3月 『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集 日本文化専攻編』18号 愛知県立大学大学院国際文化研究科 pp. 98-110
- 25 知多飛行場に関する一考察——中国人強制連行大府出張所  
共著 2021年3月 『愛知県立大学日本文化学部論集』12号 愛知県立大学日本文化学部 pp. 1-27
- 26 〈研究ノート〉日本ナショナリズム研究に向けて——国民国家論、その後  
単著 2024年3月 『愛知県立大学日本文化学部論集』15号 愛知県立大学日本文化学部 pp. 143-150

## その他

### [主な学会発表]

- 1 権の思想と中江藤樹  
単独 1989年10月 日本思想史学会（於：武蔵大学）
- 2 「己れの心」からの脱却  
単独 1991年6月 近世日本思想史研究会（於：京大会館）
- 3 テクストの内と外——「知」の権威化と度会延佳  
単独 1994年10月 日本思想史学会（於：東北大学）
- 4 近世前期神道説の位相——垂加神道への一視点  
単独 1995年10月 日本思想史学会（於：立命館大学）
- 5 対抗の言説としての「国民国家論」と近世思想史  
単独 1996年11月 近世思想史研究会（於：京都市国際交流会館）
- 6 「なぜ吉見幸和か」を考える——近世思想史研究の今日的課題  
単独 1997年2月 近世思想史研究会（於：立命館大学）
- 7 「武士道」へのまなざしと歴史表象——「江戸からの視線」は可能か  
単独 2000年6月 経済思想研究会（於：早稲田大学）
- 8 武士をめぐる語りと「武士道」  
単独 2000年10月 日本思想史学会（於：東北大学）
- 9 戦後日本文化論は何を語ってきたのか——「語り」の機能の批判的検討  
単独 2002年11月 「日本型社会」研究会（於：立命館大学）
- 10 戦後日本文化論と文化研究——ナショナリズムへの向かい方  
単独 2003年10月（於：北京外国語大学 日本学研究中心）
- 11 神道史学の系譜学——閻斎学派の語りをめぐる  
単独 2003年6月 思想史・文化理論研究会（於：京都市キャンパスプラザ）
- 12 パネルセッション：日本の「戦後」を考える  
担当：靖国問題が問いかけるもの——ナショナリズムを超えて  
単独 2005年10月 日本思想史学会（於：東京大学）
- 13 「平和国家日本」という語り——「ヒロシマ」「平和憲法」の集合的記憶  
単独 2010年8月 国際シンポジウム「南京をめぐる記憶の場」（於：南京大学）
- 14 日本における靖国神社問題  
単独 2010年9月（於：四川師範大学）
- 15 靖国神社問題と日中関係  
単独 2012年12月（於：南京師範大学 虐殺研究センター）
- 16 東アジア冷戦体制と日本——東アジアにおけるそれぞれの戦後から  
単独 2016年7月 スペインセミナー（於：愛知県立大学）
- 17 日本の文化と今後の日中関係  
単独 2017年9月（於：四川理工科技大学）

### [書評]

- 1 衣笠安喜編『近世思想研究の現在』  
共著 1995年12月 『立命館文学』542号 立命館大学文学部  
執筆担当部分：第二部「儒教」 pp. 354-358  
執筆者：宇野田尚哉、樋口浩造、表智之、松村浩二、尾川昌法

- 2 桂島宣弘『思想史の19世紀』(べりかん社)  
単独 1999年10月 『図書新聞』10月2日号 武久出版
- 3 宮川康子『富永仲基と懐徳堂——思想史の前哨』(べりかん社)  
単独 1999年10月 『江戸の思想』10号 べりかん社 pp. 178-184
- 4 中村春作『江戸儒教と近代の「知」』(べりかん社)を読む  
単独 2003年3月 『日本学報』22号 大阪大学大学院人文学研究科 pp. 115-121

[辞典]

- 1 『日本思想史辞典』  
共著 2001年6月 べりかん社 18項目担当(計9600字 署名有り)  
監修: 子安宣邦 編集: 桂島宣弘、佐藤弘夫、白山芳太郎、末木文美士、高橋文博、辻本雅史、中村生雄、宮川康子、吉田忠  
\* 辞典の項目の粗選び
- 2 『日本歴史事典』  
共著 2000年4月 小学館 10項目担当(計2400字 署名有り)  
編集代表委員: 朝尾直弘、大石嘉一郎、門脇禎二、佐藤真、永原慶二、福田アジオ
- 3 『日本思想史事典』  
共著 2020年5月 丸善出版 「日本意識の浮上」担当(2400字)

[翻訳]

- 1 テツオ・ナジタ著、子安宣邦訳『懐徳堂——十八世紀日本の「徳」の諸相』  
共訳 1992年6月 岩波書店  
執筆担当部分: 第三章(徳の探求——懐徳堂の創設) pp. 99-162

[責任編集]

- 1 「「靖国」の問い方——戦後史再考」 2007年8月 『季刊日本思想史』71号 べりかん社

[その他]

- 1 「近代の漢学」  
単著 2007年9月 『日本思想史学』39号 日本思想史学会 pp. 1-2

研究助成

- 1 科学研究費補助金 基盤研究(C)「ナショナリズムと近世儒教——「自国意識」をめぐる日朝比較思想史」 研究代表者 1999~2002年 3600千円
- 2 科学研究費補助金 基盤研究(C)「近世の自国意識とナショナリズム——「アジア」を語る自他認識の変容と展開」 研究代表者 2003~2006年 3600千円
- \* 国際交流基金から派遣 北京外国語大学日本学研究中心 2003年9月~2004年1月
- 3 科学研究費補助金 基盤研究(C)「日本ナショナリズムと戦後思想——戦争の記憶・表象に関する比較思想史的研究」 研究代表者 2008~2011年 3400千円
- 4 科学研究費補助金 基盤研究(C)「戦後日本ナショナリズム論——戦争の集合的記憶に関する日中比較思想史的研究」 研究代表者 2012~2015年 4000千円
- 5 科学研究費補助金 基盤研究(C)「東アジアから考える日本ナショナリズム論——戦

- 争の記憶・表象の比較思想史研究として」 研究代表者 2016～2019年 3400千円
- \* 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「暴力を語ること・表象することをめぐる根源的問題についての領域横断的研究」 研究協力者 2018～2023年
  - \* 学長特別研究費 「新自由主義時代の日本ナショナリズム論——戦争の記憶をめぐる東アジア比較思想史研究」 2020年 500千円
  - \* 学長特別研究費 「新自由主義時代の日本ナショナリズム論——日本ナショナリズムの供給源としての東アジア」 2023年 493千円